

## 蜜蜂の伝染病と対策

蜜蜂にも様々な病気があります。

ここでは、家畜伝染病予防法で指定されている伝染性疾病について紹介します。

### 家畜伝染病

#### ◆腐蛆病◆

蜂児がかかる病気で、原因菌により、以下の2種類があります。

#### アメリカ腐蛆病

主に有蓋蜂児が死亡し、死亡した蜂児は、粘稠性で茶褐色の腐蛆となり、巣房にマッチ棒などを差し込むと糸をひきます。巣房蓋に陥凹や小孔がみられ、時に膠臭がします。幼蛆が存在する期間はいつでも発生します。

#### ヨーロッパ腐蛆病

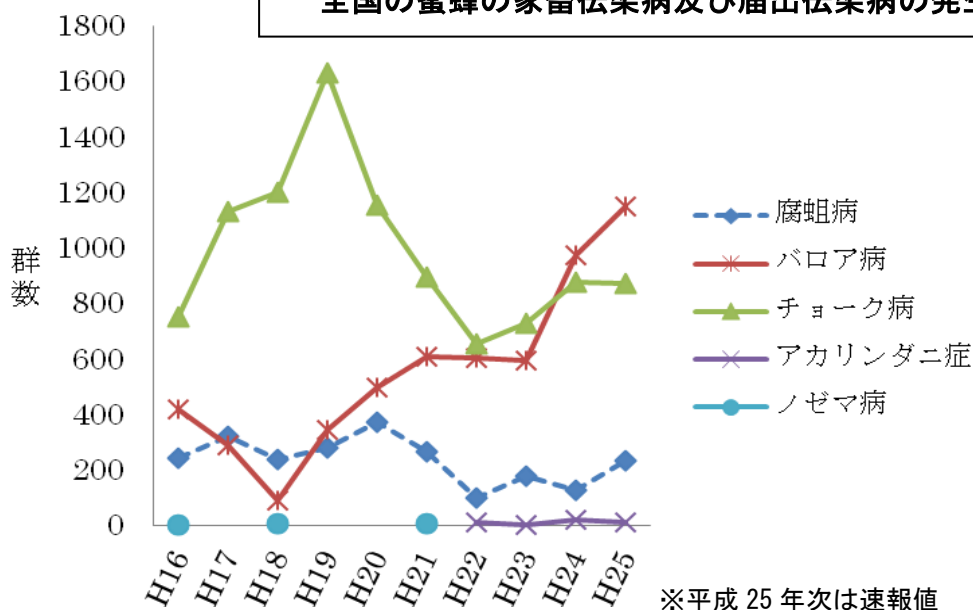
主に無蓋蜂児が死亡し、透明なコイル状蜂児、乳白色で水っぽい腐蛆がみられ、時に酸臭がします。粘稠性はありません。流蜜期に多発する傾向があります。

#### 対策

予防対策と早期発見による感染拡大防止が重要です。感染予防のためには、適正な管理を行い、蜂群を強く保つことが大切です。また、病気が広がらないように蜂具の貸し借りは行わないようにしましょう。

アメリカ腐蛆病の予防は、抗生物質製剤がありますが、蜂蜜に残留しないよう用法を守り、投薬期間や休薬期間に注意して使用してください。

### 全国の蜜蜂の家畜伝染病及び届出伝染病の発生群数



裏面に続く

## 届出伝染病

### ◆バロア病◆

特にセイヨウミツバチに対して大きな被害をもたらします。ミツバチヘギイタダニが蜂児に寄生し、体液を吸うため発育障害を引き起こし、羽化した成蜂に腹部の萎縮、翅の奇形、脚の変形等を起こします。ダニの伝播は寄生蜂の直接移動および蜂と蜂の直接接触によります。

対策としては、ピレスロイド系殺虫剤フルバリネート製剤等が有効ですが、薬剤に抵抗性のダニが世界中で増加しており、脅威となっています。寄生率が低い場合には、有機酸（蟻酸、乳酸など）も有効といわれています。

### ◆チョーク病◆

ハチノスカビが幼虫に感染することで引き起こされます。感染死した蜂児は菌糸に覆われチョーク様に見えます。

現在、有効な薬剤はなく、一般の蜂病と同様に群を強勢に維持することが重要です。また、原因菌はカビであることから、湿気の多い環境にしないように、蜂場の風通しをよくすることが必要です。また、真菌胞子は熱に弱いことから、器具の熱湯消毒、火炎滅菌などの対策は有効です。

### ◆アカリダニ症◆

国内では平成 22 年に初めてニホンミツバチにおける本症の発生が確認されました。平成 26 年には本県初の発生が確認されています。感染しても多くは無症状ですが、重度寄生があると、呼吸困難、飛翔不能などが出現し、重感染群では越冬期の蜂数が激減します。

現在特効薬はなく、冬季に蜂群を弱らせない適正な管理の実施が重要です。

### ◆ノゼマ病◆

ノゼマ原虫が原因でおこる成蜂の消化管疾患です。早春に発生し、腹部膨満、飛翔不能、寿命短縮等が見られます。

わが国では許可された有効な薬剤はありません。予防策としては群を強勢に保つとともに、器具資材の消毒など基本的衛生管理を徹底することが重要です。

蜜蜂の伝染病かな？と思ったら家畜保健衛生所  
にご連絡ください。



神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679